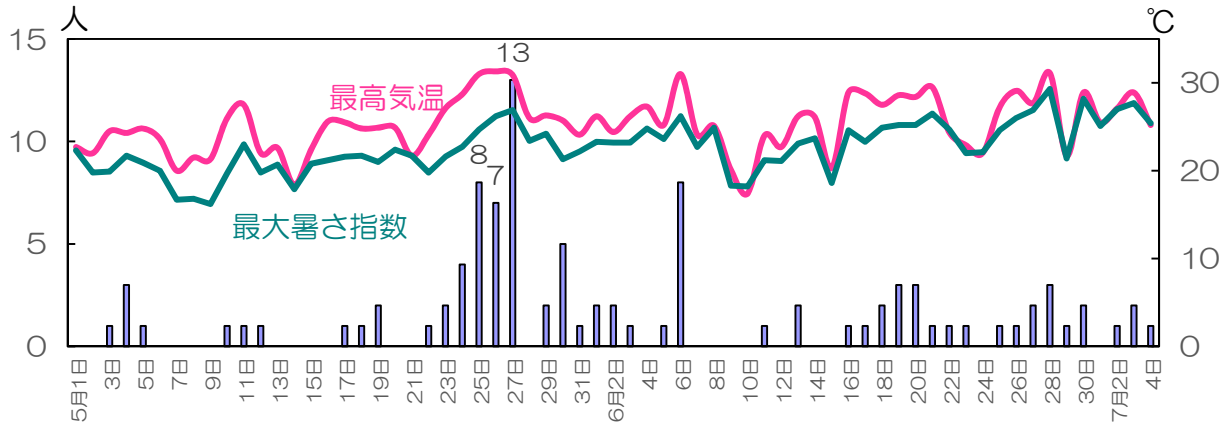


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和元年5月1日～7月4日までの搬送数（消防局データを使用）は、計99人（5月55人、6月40人、7月4人）でした。5月25～27日は真夏日（最高気温30.9～31.3℃）となり、搬送数も7～13人と多かったです。6月以降の真夏日は2日間（6月6・28日）で、6月の搬送数は、5月よりも少なかったです。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温は28℃を超えないように調節し、暑さから身を守りましょう。



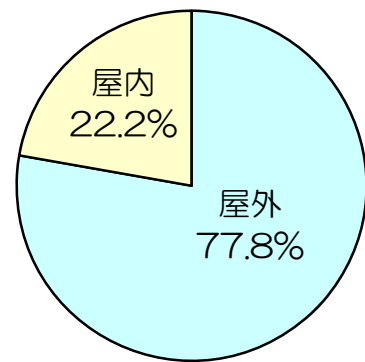
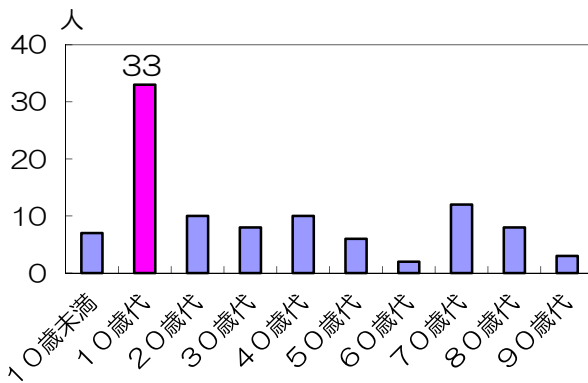
**暑さ指数とは?** 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

年齢別では、10歳代が33人と、最も多く、33.3%でした。

## <発生場所>

屋外77.8%、屋内22.2%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症74.7%、中等症22.2%、重症3.0%でした。

重症は、高齢者（65歳以上）の屋外（歩行中・作業中）、屋内で発生しており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

